

2022年3月期第1四半期 決算説明会

2021年7月28日

 日立建機株式会社

執行役 営業本部長 松井 英彦

執行役 財務本部長兼CFO 塩嶋 慶一郎

1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役 営業本部長
松井 英彦

地域別市場環境と見通しについて、松井よりご説明致します。

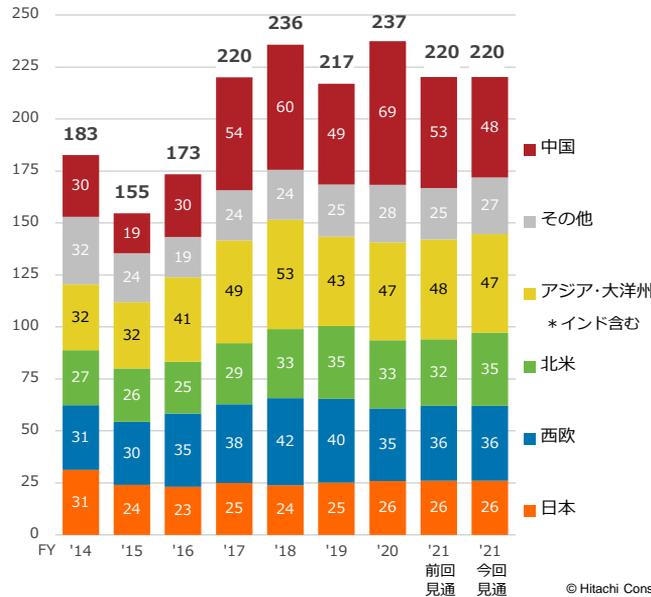
油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable solutions

新興国比率：21年度 56%（前年比-5%）

※新興国：中国、アジア・大洋州、その他



地域別需要对前年増減

※当社推定 中国国産メーカー含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

	'20	'21
合計	+9%	-7%
中国	+42%	-30%
ロシア・CIS	-7%	+0%
東欧		
アフリカ	+10%	-10%
中東	+10%	+0%
中南米	+34%	-0%
その他	+11%	-2%
アジア	+12%	+5%
インド	+5%	-4%
オセアニア	+16%	-1%
アジア・大洋州	+9%	+1%
北米	-6%	+8%
西欧	-13%	+3%
日本	+3%	+0%

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 3

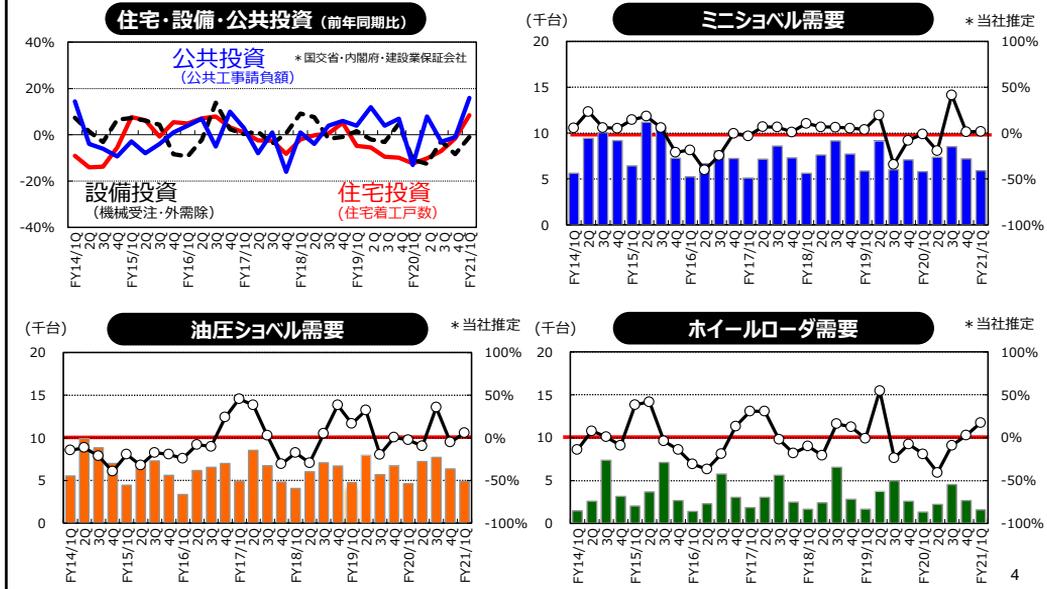
油圧ショベルの世界需要見通しについてご説明申し上げます。

21年度の需要は、原油などの資源価格の上昇を背景に、ロシアや中東、インドネシアなど一部アジア地域で需要が前予想より改善、また、北米も堅調な住宅建設需要に伴い、需要が増加する見込みですが、中国市場の20年度の大規模需要増からの反動による減少幅が前回よりも増加すると想定するため、全体としましては前回と同じ22万台を今回も据え置いております。

対前年では全世界合計で7%の減少、中国を除くと2%の増加となります。

次に、各地域別に第1四半期の結果についてご説明申し上げます。

- 住宅投資、公共投資は増加。設備投資は前年と同水準まで改善。
- 需要は増加：前年同期比 油圧 +6%、ミニ +2%、WL +17%

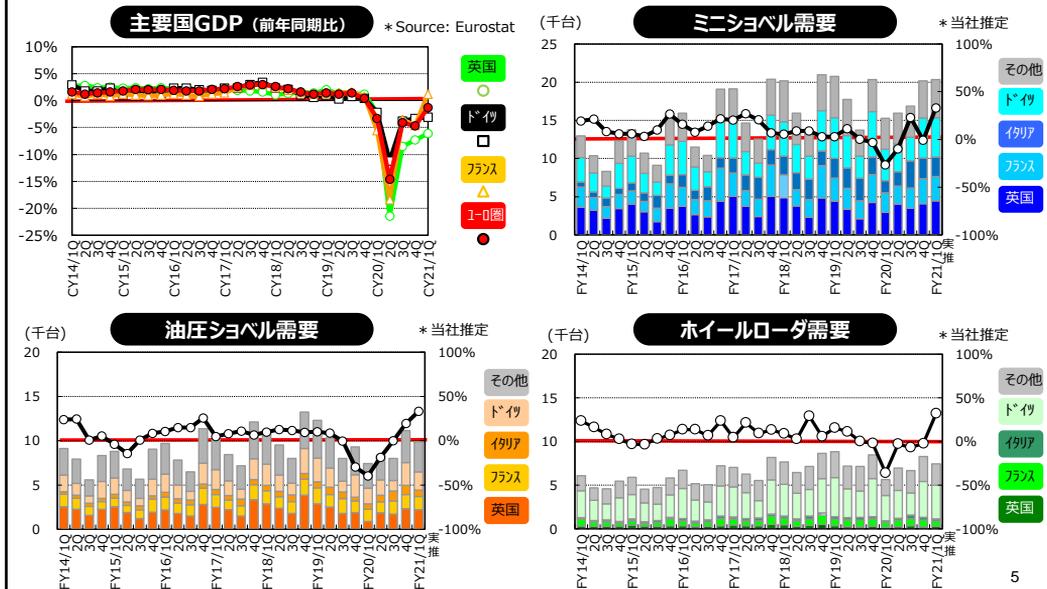


日本市場です。

左上、第1四半期の公共投資と住宅投資はコロナで大きく落ち込んだ前年同期の反動もあり、大きく増加致しました。また、設備投資については前年並みに改善しております。

左下、油圧ショベルの第1四半期需要は、前年同期比で6%増、右上のミニショベルは2%増、右下のホイールローダーは年初に比較的降雪が多かった影響もあり除雪向けの販売が伸びたため17%の大幅増となりました。

- ユーロ圏全体のGDP成長率は改善傾向。
- 需要は大幅増：前年同期比 油圧 +33%、ミニ +33%、WL +32%



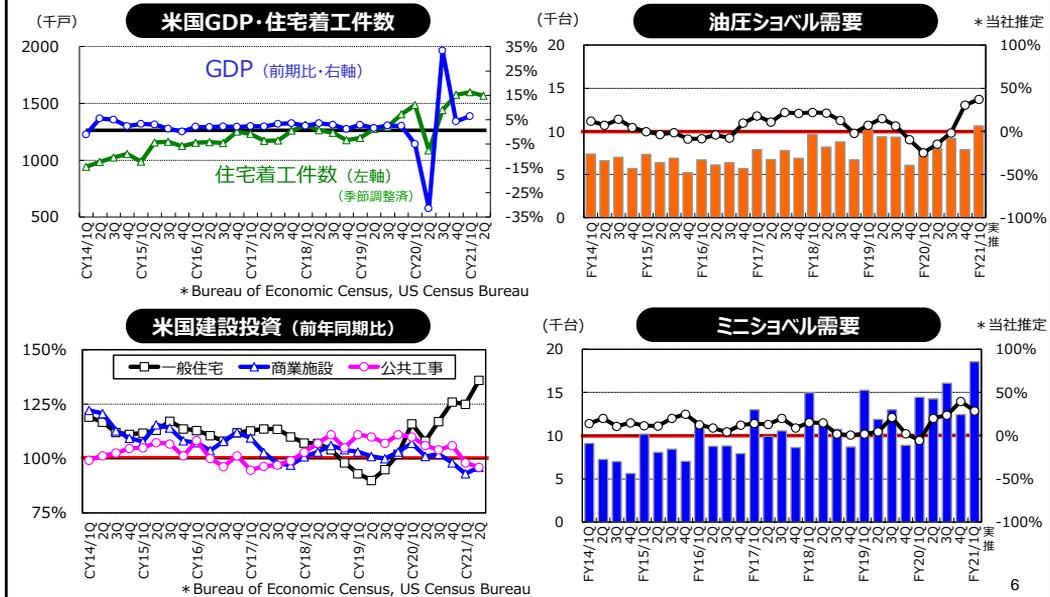
欧州市場です。

左上、2021年1-3月期のユーロ圏のGDP成長率は、前年同期比でマイナス成長が継続していますが、ワクチン接種の進展に伴う制限措置の緩和もあり、主要国のGDPは回復基調にあります。

2021年度の第1四半期の需要においては、コロナで大きく落ち込んだ前年同期の反動もあり、主要国の需要は大きく増加しております。

左下の油圧ショベルの需要は、イギリスの大幅増加が全体を押し上げたこともあり、前年同期比で33%増、右上と右下のミニショベルとホイールローダについてもそれぞれ33%増、32%増と全製品で大幅増となります。

- 住宅着工件数、建設投資の一般住宅は増加継続。商業施設と公共工事は前年並み。
- 需要は大幅増：前年同期比 油圧 +37%、ミニ +28%



北米市場です。

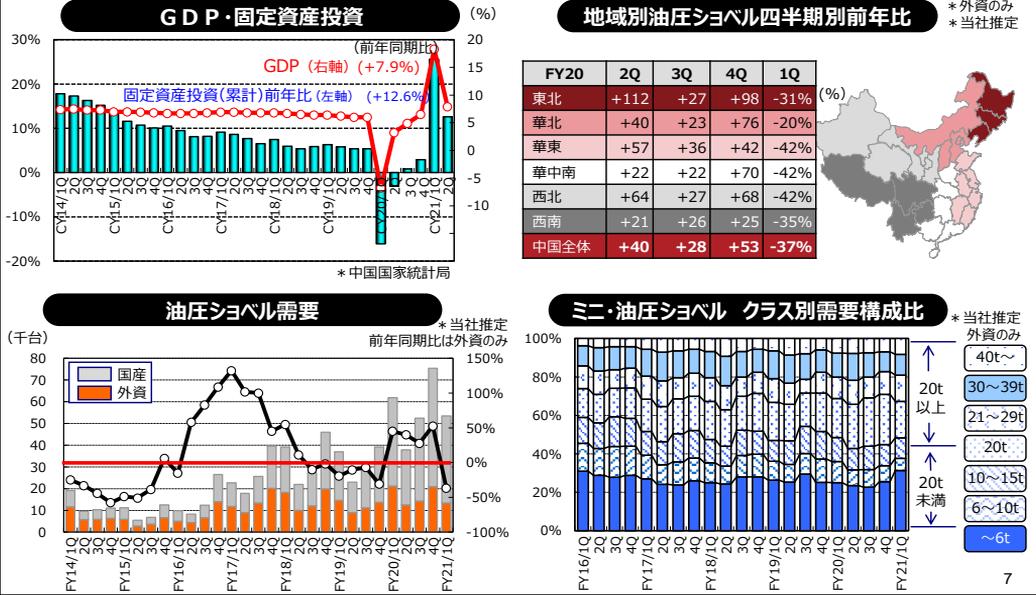
左上のグラフ、GDPは前期比で増加、住宅着工件数については依然として高い水準で推移しております。

左下の建設投資は、一般住宅が前年同期比で継続して増加し、上昇幅も拡大しました。商業施設と公共工事は前年並みに推移しております。

右上の第1四半期の油圧ショベル需要は、前年同期比で37%増と2期連続での大幅増となりました。

右下のミニショベルは堅調な住宅建設市場に伴って、前年同期比で28%増と引き続き高い需要水準で推移しております。

- GDP成長率は+7.9%
- 油圧需要は減少（前年同期比 -37%、外資のみ）



中国市場です。

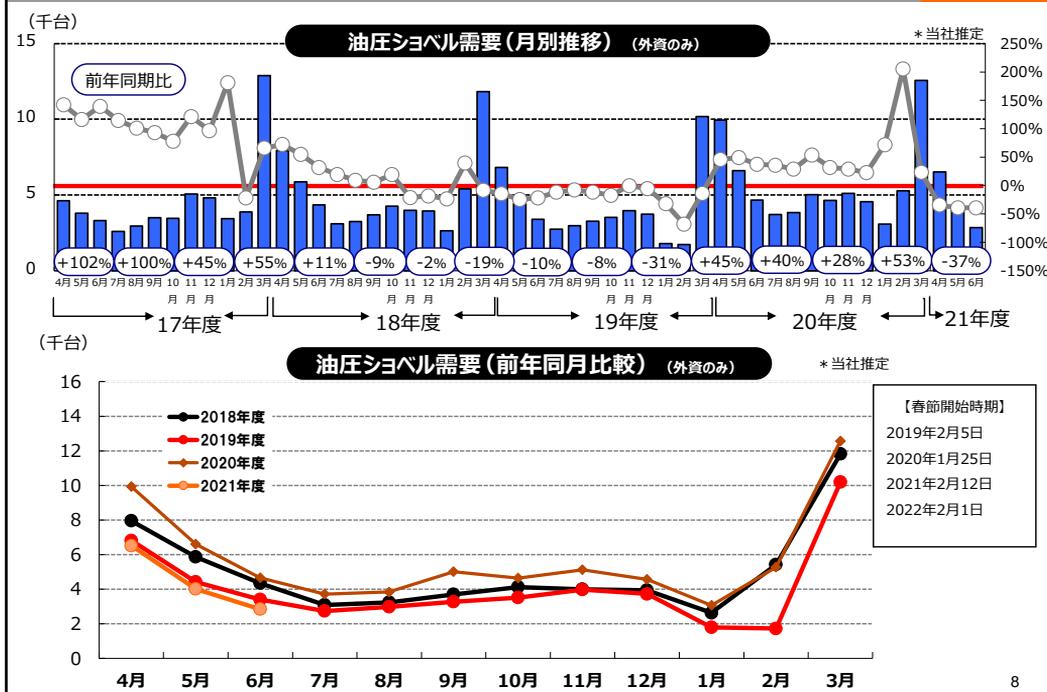
4月から6月期のGDP成長率は7.9%増。固定資産投資は前年同期比で12.6%増と、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた前年同期に比べ大きく回復致しました。

油圧ショベルの需要においては、第1四半期の国産機含めた全需要で前年同期比14%減となりました。

内訳として国産の需要は1%の減少、外資は37%の減少となりました。

また、右上の地域別需要推移において、全地域で需要が減少しております。

クラス別需要構成比は、資料の右下をご参照ください。

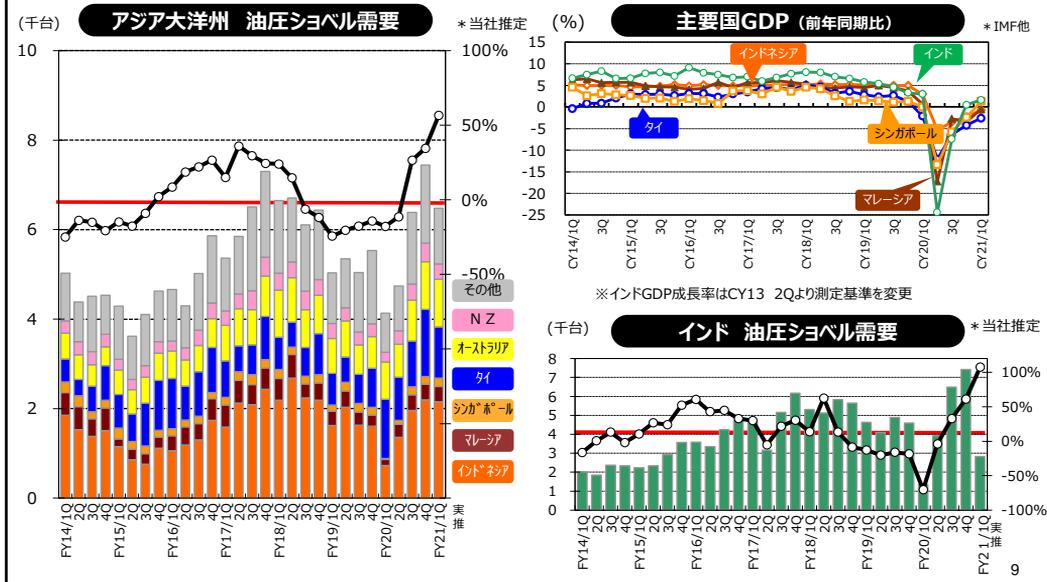


中国市場の補足です。

上段グラフ、外資メーカーの月別油圧ショベル需要推移において、21年度第1四半期で前年同期比37%減となりました。

昨年度第1四半期は新型コロナウイルスの影響で春節需要が後ろ倒しとなって非常に高い需要水準であった一方、本年度第1四半期は建設資材コストの上昇に伴って工事進捗が鈍化していることを背景に建機需要が伸び悩み、対前年同期比で外資メーカーのみで37%減少となりました。

- アジア大洋州の油圧需要は全体では前年同期比 +57%
- インドの油圧需要は前年同期比 +107%



アジア大洋州、インド市場です。

右上、主要国のGDPは、インドとシンガポールが前年同期比でプラスとなり、他東南アジアの国でも減少幅が改善しております。

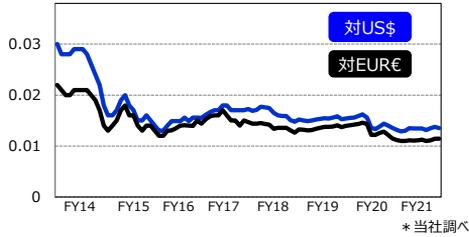
左側、アジア・大洋州の油圧ショベルの第1四半期需要は前年同期比で57%増となりました。東南アジア各地でコロナの新規感染者数が再拡大しておりますが、タイを除く全ての地域で需要が対前年同期比でプラスとなり、石炭などの資源価格の上昇もあり、インドネシアが前年比で大きく増加し、マレーシアとシンガポールも大きく増加しております。

右下、インドの油圧ショベル需要は、公共投資などの景気対策により回復基調にありましたが、コロナの感染再拡大もあり、対前期比では需要は大きく減少しております。ただし、前年同期比では大きく落ち込んだ昨年の反動もあり、107%増となります。

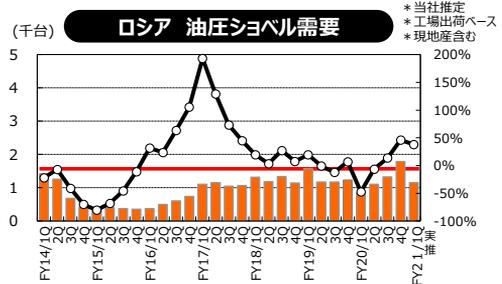
。

- ロシアの油圧需要は前年同期比 +38%
- 中東の油圧需要は前年同期比 +23%

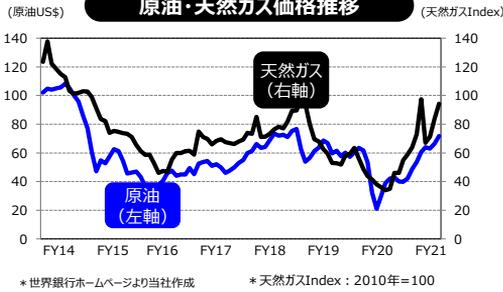
ルーブル為替推移



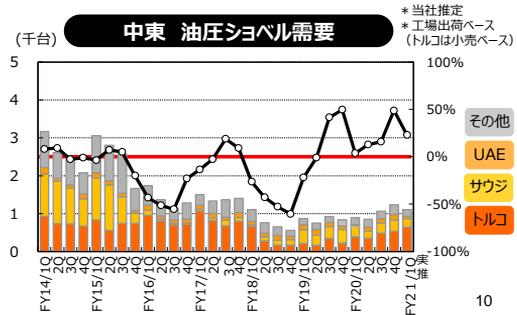
ロシア 油圧ショベル需要



原油・天然ガス価格推移



中東 油圧ショベル需要



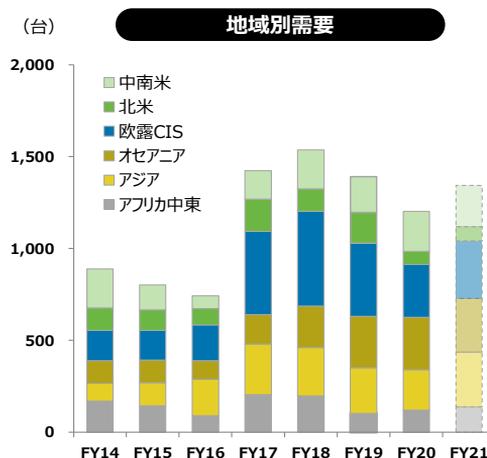
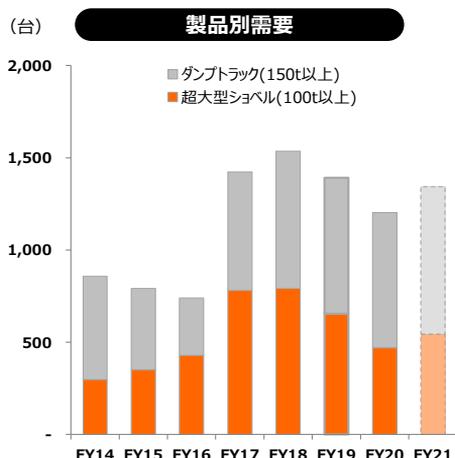
ロシア中東市場です。

右上、ロシアの油圧ショベルの第1四半期需要は、前期比で減少するものの、資源価格の上昇を背景に前年同期比では38%増と増加を維持しております。

右下、中東の油圧ショベルの需要は、前期に続いてトルコ需要が大きく伸長し、前年同期比で23%増と堅調に推移しております。

- 21年度マイニング需要は対前年+15%増加を見通す
- ハードロック向け需要は依然堅調、中小鉱山・コントラクタ向け100tクラスショベル需要増加

超大型油圧ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)

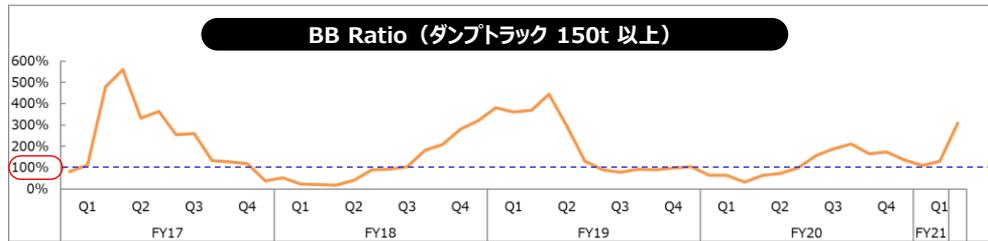


※当社調べ

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 11

21年度のマイニング需要は、世界経済の回復、各国の積極的なインフラ投資、好調な資源価格を背景に対前年で約15%増加すると見通します。

鉱種別ではハードロック向けは依然堅調に推移、インドネシアを含むアジアでの石炭向け需要が増加し、クラス別では中小鉱山、コントラクタ向け100tクラスショベルの需要が増加すると予測します。



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)
 当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

BBレシオです。

マイニング市況の回復から受注が増加しており、超大型ショベル・ダンプトラックで100%を大きく上回っています。

資源メジャー、地場大手からは複数年に渡る納期案件の受注も獲得しています。

トピック(1) : ABBとフル電動ダンプトラックの共同開発開始

HITACHI

Reliable solutions

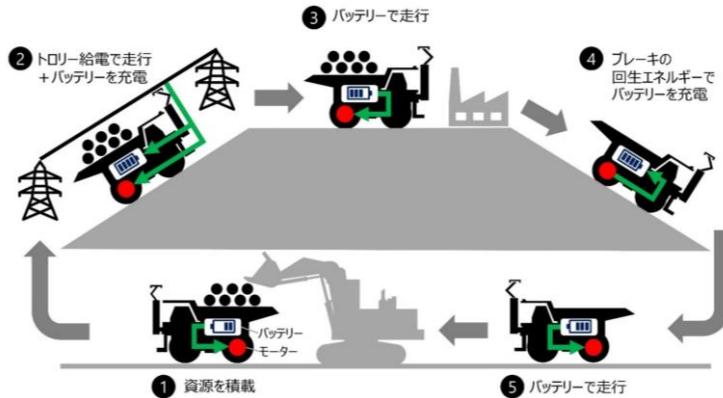
「ネット・ゼロ・エミッション・マイニング」の実現に向けて
2024年半ばから お客様の鉱山で実験開始をめざす

トロリー充電式によりバッテリー搭載量を抑制

- 初期費用・ライフサイクルコストを抑制
- 車体重量を軽くして、積載量を最大化
- 充電のために停車不要、高稼働率を実現



トロリー充電式リジッドダンプトラック



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 13

ここからはトピックです。

近年、ESG意識の高まりから、鉱山現場では、鉱山機械の電動化の動きが加速しています。

当社では、重電大手のABB社と共同で、フル電動ダンプトラックの共同開発を開始しました。

架線の下を走りながら充電する「トロリー充電式」を採用することで、大きく3つの特長を実現します。

1つ目は、バッテリーの搭載量を抑制し、初期費用、ライフサイクルコストを抑えます。

2つ目は、フル電動ダンプとしては、車体重量の増加を抑え、積載量を最大化します。

3つ目は、走りながら充電できるので、停車する必要がなく、高稼働率を実現します。

両社の知見・ノウハウを活用することで、開発スピードを加速させ、2024年半ばから、お客様の鉱山で実証実験の開始をめざします。

トピック(2)：東南アジア市場のマーケティング・販売を強化

HITACHI

Reliable solutions

2021年4月より土木専用機ユーザーテストを実施中

- ・現地の都市土木に最適な仕様・構造を検討
- ・現地のお客さまの声を製品開発に反映



中古車事業の展開を加速、バリューチェーン事業を深化

- ・東南アジア地域で中古車を調達、保証付き・整備済みの認定中古車として展開
- ・自社でのレンタル後、良質な中古車を創出
- ・中古車販売後も、ConSite®の活用によりメーカー品質の保守・サービスを提供



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 14

東南アジア市場での取り組みをご紹介します。

東南アジア市場において、都市土木のお客さまへの拡販をめざし、マーケティング・販売を強化しています。

マーケティングにおいては、中国市場に投入した土木専用機を使って、今年4月より東南アジアでのユーザーテストを実施しています。

現地の都市土木に最適な仕様・構造を検討し、お客さまの声を製品開発に反映しようと努めています。

また、中古車事業においては、メーカーならではの整備を行い、認定中古車として、東南アジア各国で展開しています。

マレーシアとインドネシアでは自社でレンタル車として活用した後、良質な中古車を創出しております。

さらに、ConSite®を活用することで、中古車を販売した後も、お客さまと継続的にコンタクトを取り、メーカー品質の保守・サービスを提供しています。

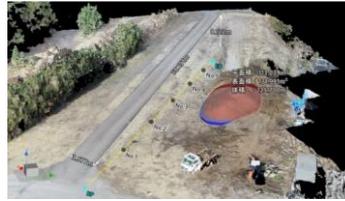
トピック(3) : Solution Linkage® シリーズを強化

HITACHI

Reliable solutions

Solution Linkage® Point Cloud の提供を開始

ドローンで撮影した写真をクラウド上で処理し、3次元点群データ化が可能



ICT・IoTソリューション「Solution Linkage®」を通して、お客さまの課題である「安全性向上」「生産性向上」「ライフサイクルコスト低減」に貢献

Solution Linkage® シリーズ

Solution Linkage®
Assist

ICT搭載建機



Solution Linkage®
Cloud

アプリケーションポータル



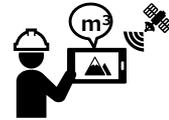
Solution Linkage®
Mobile

ダンプトラックなどの運行管理



Solution Linkage®
Survey

スマートフォンで土量計測



Solution Linkage®
Wi-Fi

現場にネットワーク環境を構築



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 15

「Solution Linkage®」シリーズの強化についてです。

ドローンで撮影した写真を、クラウド経由で3次元点群データを作成するサービス「Solution Linkage® Point Cloud」の提供を開始しました。

お客さま保有の機器を自由に組み合わせて、短時間かつ低コストで3次元点群データを作成できるようになり、日々の施工進捗の記録などに活用いただけます。

また、当社では、ICT建機の販売のみならず、お客さまのニーズに合わせてICT施工をサポートする「Solution Linkage®」シリーズを提供することで、お客さまの課題である「安全性向上」「生産性向上」「ライフサイクルコスト低減」に貢献していきます。

東京オリンピック クレー射撃競技 女子トラップ、混合トラップ日本代表
日立建機クレー射撃部所属 中山由起枝(なかやまゆきえ)選手



応援よろしくお願いします!



プロフィール
1997年入社。高校生までソフトボール選手として活躍後、当社入社を機にクレー射撃へ競技転向。クレー射撃競技歴24年。5度目の五輪に挑む。

情報誌「TIERRA+」Vol.134
[「クレー射撃の観戦のススメ」](#)
クレー射撃の魅力をご紹介します。
ぜひご覧ください。

最後に、現在開催中の東京オリンピックについてです。

当社所属の 中山 由起枝(なかやま ゆきえ)選手が、クレー射撃競技 女子トラップ、混合トラップの2種目に出場致します。

オリンピック出場5度目のチャレンジとなる中山選手の応援を、皆さまよろしくお願い致します。

当社情報誌「TIERRA+(ティエラプラス)」の最新号で、クレー射撃競技の魅力を集めていますので併せてご覧ください。

2. 2022年3月期第1四半期 決算説明

執行役 財務本部長兼CFO
塩嶋 慶一郎

執行役の塩嶋でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

21年度第1四半期の決算、ならびに21年度通年業績予想の概要をご説明申し上げます。

連結決算の概要

HITACHI

Reliable solutions

当第1四半期は、COVID-19の影響はあるも、為替円安影響145億円などにより、売上収益は前年同期比34%増収、調整後営業利益は303%増益。

(単位：億円)

	21年度 1Q	20年度 1Q	前年同期比 増減率	
売上収益	2,281	1,702	34%	
調整後営業利益 *1	(5.2%) 118	(1.7%) 29	303%	
営業利益	(5.2%) 119	(1.5%) 25	374%	
税引前四半期利益	(5.3%) 120	(1.1%) 18	572%	
親会社株主に帰属する 四半期利益	(3.1%) 71	(0.1%) 2	-	
EBIT *2	(5.5%) 127	(1.6%) 27	369%	
為替	アメリカドル	109.5	107.6	1.9
	ユーロ	132.0	118.5	13.5
	中国元	17.0	15.2	1.8
	オーストラリアドル	84.3	70.7	13.7

*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 18

21年度第1四半期の売上収益は、為替円安影響による145億円の持上げ効果もあり、前年比34%増の2,281億円となりました。

調整後営業利益は、前年比303%増の118億円で利益率5.2%、営業利益は119億円で利益率は同じく5.2%でありました。

親会社株主帰属の当期利益は、71億円でありました。

なお、第1四半期累計期間の為替レートは、前年比で米ドルが1.9円の円安、ユーロも13.5円、元も1.8円、オーストラリアドルも13.7円の同じく円安でした。

連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable solutions

中国を除き各地域で前年同期比増収となり、連結合計では580億円の増収。

(単位：億円)

	21年度 1Q		20年度 1Q		前年同期比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	432	19%	399	23%	33	8%
アジア	163	7%	92	5%	71	77%
インド	99	4%	48	3%	51	107%
オセアニア	397	17%	331	19%	66	20%
欧州	314	14%	135	8%	179	132%
北米	421	18%	279	16%	142	51%
中南米	47	2%	28	2%	19	67%
ロシアCIS	76	3%	43	3%	33	77%
中東	65	3%	33	2%	32	95%
アフリカ	93	4%	62	4%	31	49%
中国	175	8%	251	15%	△75	△30%
合計	2,281	100%	1,702	100%	580	34%
海外売上収益比率	81%		77%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 19

当第1四半期の売上収益は前年比580億円の増収となりました。
 なお、その内数として、為替円安の影響を145億円と分析しております。
 地域別でも、中国以外の全地域で前年比増収となりました。

中国では、稼働台数の余剰感から需要が減退し、前年比30%もの大幅減収となりました。

一方、北米、欧州においては新型コロナが収束傾向にあり、市況の回復基調を受けて前年比で大幅な増収となりました。

また、未だ新型コロナ 第二波の影響が懸念されるインド、アジアにおいても、大きく増収となりました。

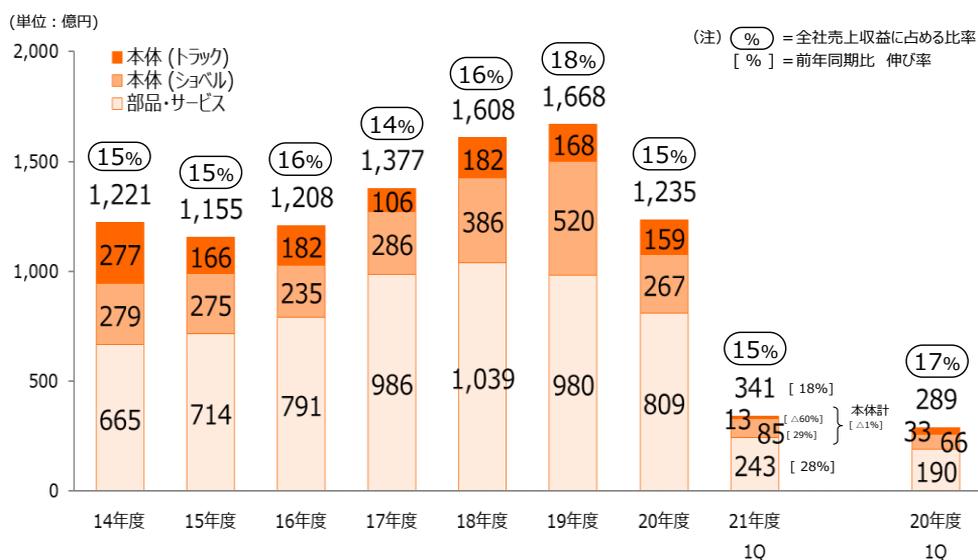
結果、海外売上収益比率は、前年比4ポイント増の81%となりました。

マイニング売上収益推移

HITACHI

Reliable solutions

当第1四半期は、為替円安影響32億円もあり、前年同期比18%増の341億円。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 20

当21年度第1四半期のマイニング売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通り341億円と、為替円安影響もあり、前年比18%の増収でした。

本体売上においては、ショベル本体がオセアニア、ならびにロシア・CIS地域の貢献で前年比29%の増収となったものの、トラック本体はオセアニア地域の当四半期の納入案件が少なく、60%の減収でした。

一方、マイニング部品サービスは前年比28%の増収となりました。

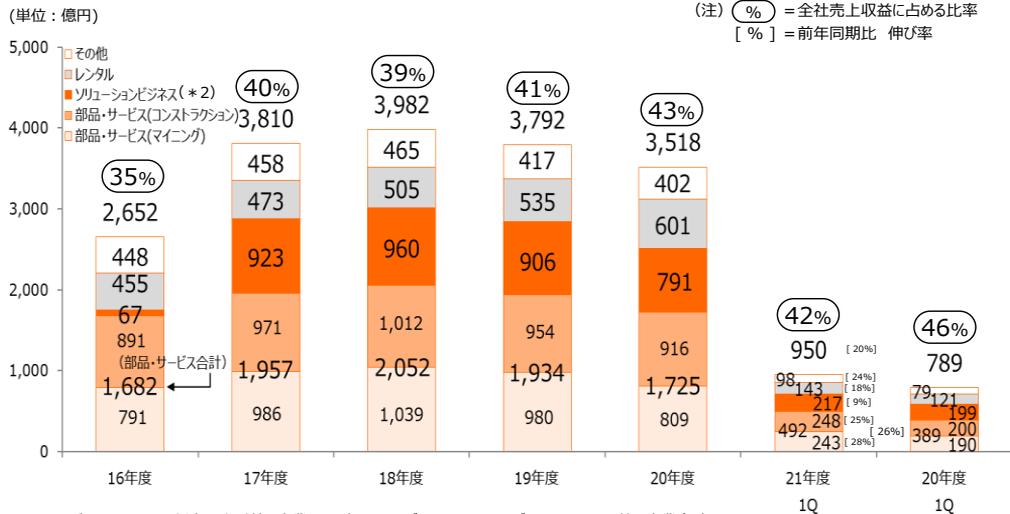
なお、連結売上収益に占めるマイニング売上収益の比率は15%と、前年比で2ポイント低下しました。

バリューチェーン*1 売上収益推移

HITACHI

Reliable solutions

当第1四半期は、為替円安影響70億円もあり、合計では前年同期比20%増収の950億円。



*1 バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

*2 ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 21

右から二番目の棒グラフをご覧ください。

当第1四半期のバリューチェーン売上収益は、ご覧の通り、前年同期比20%増の950億円でした。

為替円安影響を9%相当の増収要因と分析し、現地通貨ベースでは前年比11%増収と捉えております。

各棒グラフの上段から2段目、グレー色のレンタル事業は、これまでの施策の効果により、前年比で18%の増収となった他、部品サービス収益も26%の増収となりました。

なお、連結売上収益に占めるバリューチェーン売上収益の比率は42%と、前年比で4ポイント低下しました。

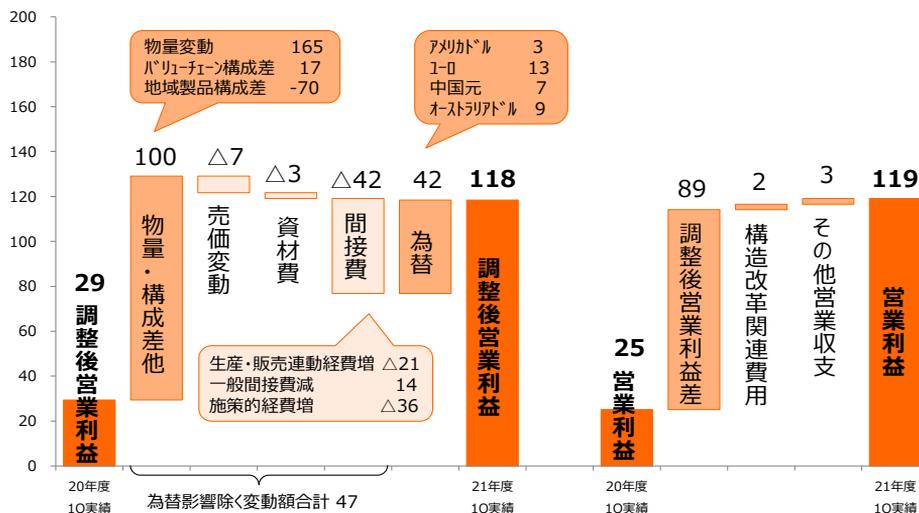
連結損益変動要因

HITACHI

Reliable solutions

調整後営業利益は、物量・構成差増及び為替円安影響等により、間接費増はあるも前年同期比で89億円の増益。

(単位：億円)



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 22

図の左側は、調整後営業利益が、前年比89億円の増益となった要因となります。

これまでご説明しました通り、中国以外の全地域で増収となったことから、物量・構成差で100億円もの増益要因となりました。

一方で、需要回復に伴う物量増加に対応するため、加えてレンタル事業拡大目的からも、生産・販売連動経費を主体に間接費を42億円増加しましたが、為替円安影響42億円で吸収し、調整後営業利益は、前年比89億増益の118億円となりました。

また、営業利益は、前年比 94億増益の119億円となりました。

要約連結損益計算書

HITACHI

Reliable solutions

販売費・管理費は442億円と前年同期比76億円の増。

(単位：億円)

	21年度 1Q	20年度 1Q	前年同期比	
			金額	増減率
売上収益	2,281	1,702	580	34%
売上原価	(75.4%) 1,721	(76.7%) 1,306	415	32%
販売費・管理費	(19.4%) 442	(21.5%) 366	76	21%
調整後営業利益 *1	(5.2%) 118	(1.7%) 29	89	303%
その他の収益及び費用	1	△4	5	-
営業利益	(5.2%) 119	(1.5%) 25	94	374%
金融収益及び費用	△11	△8	△2	29%
持分法投資損益	12	1	11	-
税引前四半期利益	(5.3%) 120	(1.1%) 18	102	572%
法人所得税費用	42	6	36	602%
四半期利益	(3.4%) 78	(0.7%) 12	67	557%
親会社株主に帰属する 四半期利益	(3.1%) 71	(0.1%) 2	69	-

*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 23

ここでは、営業外損益以下を簡単にご説明します。

金融収益・及び費用は、円安による為替差損の影響により、前年比2億円の悪化となりました。

一方、持分法投資損益は前年同期比11億円の増益でした。

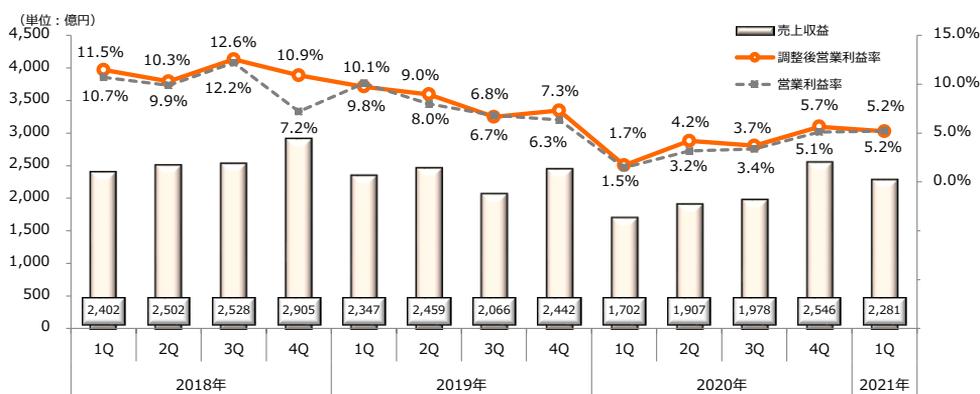
親会社株主に帰属する四半期利益は、前年比69億増益の71億円となりました。

要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable solutions

	2018年				2019年				2020年				2021年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上収益	2,402	2,502	2,528	2,905	2,347	2,459	2,066	2,442	1,702	1,907	1,978	2,546	2,281
調整後営業利益	276	258	318	317	229	221	138	179	29	80	74	144	118
営業利益	257	248	308	210	237	196	141	155	25	60	67	130	119



四半期別 為替レート	2018年				2019年				2020年				2021年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
アメリカドル	109.1	111.5	112.9	110.2	109.9	107.4	108.8	108.9	107.6	106.2	104.5	105.9	109.5
ユーロ	130.1	129.6	128.8	125.2	123.5	119.3	120.3	120.1	118.5	124.1	124.5	127.7	132.0
中国元	17.1	16.4	16.3	16.3	16.1	15.3	15.5	15.6	15.2	15.4	15.8	16.4	17.0
オーストラリアドル	82.6	81.5	81.1	78.5	76.9	73.6	74.3	71.8	70.7	75.9	76.3	81.8	84.3

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 24

一番右側の21年度第1四半期をご覧ください。

当第1四半期の売上収益2,281億円は、昨20年度第1四半期と比較すると、物量増に加えて、為替円安影響145億円を含めて580億円の大幅な増収となりました。

調整後営業利益率も、折れ線グラフに示した通りに、当第1四半期は5.2%となりました。

当四半期末は、営業債権の圧縮△160億円により流動資産計△48億円の圧縮。

					(単位：億円)				
	(A) 21年1Q	(B) 20年度末	(C) 20年1Q	(A)-(B) 増減	(D) 21年1Q	(E) 20年度末	(F) 20年1Q	(D)-(E) 増減	
現金及び現金同等物	727	803	710	△77	営業債務及びその他債務合計	1,919	1,992	1,666	△73
営業債権	1,952	2,112	1,762	△160	社債及び借入金	3,283	3,295	3,439	△12
棚卸資産	3,083	2,978	3,103	105	負債の部合計	6,468	6,513	6,265	△45
流動資産合計	6,123	6,172	5,933	△48	(親会社所有者帰属持分比率)	(42.6%)	(42.1%)	(41.2%)	(0.5%)
非流動資産合計	6,122	6,034	5,626	88	資本の部合計	5,777	5,692	5,294	85
資産の部合計	12,245	12,206	11,559	40	負債・資本の部合計	12,245	12,206	11,559	40
非流動を含めた営業債権	2,360	2,527	2,153	△166					
棚卸資産 内訳									
本体	844	773	835	71	有利子負債計	3,283	3,295	3,439	△12
部品	1,043	1,023	1,084	20	現金及び現金同等物	727	803	710	△77
その他	1,196	1,182	1,184	13	ネット有利子	(20.9%)	(20.4%)	(23.6%)	(0.5%)
棚卸資産計	3,083	2,978	3,103	105	負債	2,556	2,492	2,729	64
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)	ネットD/Eレシオ	0.49	0.48	0.57	0.01
営業債権 (非流動含む)	99	113	91	△14					
棚卸資産	129	134	131	△5					
営業債務	47	49	40	△3					
正味運転資金	178	194	178	△16					

前年度末21年3月比較では、営業債権を1,952億円と、160億縮減しました。棚卸資産が新車在庫を主体に90億増加となりましたが、流動資産合計では6,123億円と前年度末より48億の圧縮となりました。

一方、非流動資産合計を賃貸用営業資産主体に88億増加したことから、総資産は12,245億円と、前年度末より40億増加となりました。

手持日数では、営業債権が前年度末より14日短縮の99日、棚卸資産も5日短縮の129日となりました。

この結果、正味運転資金手持日数は前年度末よりも16日短縮した178日となりました。

右側の有利子負債計は、前年度末より12億縮減した3,283億円となりましたが、一方で現預金を77億減少したこともあり、ネット有利子負債は64億増加の2,556億円となりました。

資本合計は5,777億円で、親会社所有者帰属持分比率は42.6%、ネットD/Eレシオは0.49でした。

連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable solutions

営業キャッシュ・フローは67億円のポジティブ。

(単位：億円)

	21年度 1Q	20年度 1Q	前年同期比 増減額
四半期利益	78	12	67
減価償却費	212	129	82
売掛金及び受取手形の増減	186	419	△ 233
棚卸資産の増減	91 △ 103	199 △ 28	△ 107 △ 75
買掛金及び支払手形の増減	9	△ 192	201
その他	△ 236	△ 114	△ 123
営業活動に関するキャッシュ・フロー	67	214	△ 148
営業キャッシュ・フロー・マージン率	2.9%	12.6%	△ 9.7%
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△ 82	△ 93	11
フリー・キャッシュ・フロー	△ 15	122	△ 137
財務活動に関するキャッシュ・フロー	△ 66	△ 43	△ 23

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 26

当第1四半期の営業キャッシュフローは67億円のポジティブを確保しましたが、前年比では148億の減額となりました。

一方、投資キャッシュフローでは82億円の支出と、前年比で11億縮減したものの、フリーキャッシュフローは15億円の支出となりました。

要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable solutions

21年度連結損益計算書は、前回予想と同様を見込む。

(単位：億円)

	21年度		20年度		前年比	
	予想		実績		金額	増減率
売上収益	8,800	(7.0%)	8,133	(4.0%)	667	8%
調整後営業利益	620	(6.6%)	327	(3.5%)	293	90%
営業利益	580	(6.4%)	282	(3.1%)	298	105%
税引前当期利益	560	(3.7%)	256	(1.3%)	304	119%
親会社株主に帰属する当期利益	323		103		220	212%
EBIT	588		287		300	
通貨	1Q 実績	2Q-4Q 予想	年度 予想	20年度 実績	前年比	
アメリカドル	109.5	105.0	106.0	106.0	△ 0.0	為替感応度は 参考資料1を ご参照ください
ユーロ	132.0	125.0	126.9	124.6	2.3	
中国元	17.0	16.0	16.2	15.7	0.5	
オーストラリアドル	84.3	80.0	81.0	76.0	5.0	
1株当たり配当金 *1	未定			20円	-	

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 27

今回の21年度業績予想をご説明します。

今年度の需要環境、ならびに当四半期3か月の実績を踏まえ、現時点の今年度業績予想を、前回予想同額に据え置きます。

具体的には、前回4月公表値の売上収益8,800億円、調整後営業利益620億円、親会社株主に帰属する当期利益323億円を据え置きます。

なお、第2四半期以降の予想為替レートに関しまして、アメリカドルとユーロは変更しておりませんが、中国元、オーストラリアドルについては直近の金融機関からの情報を基に、今回円安方向に見直しをしました。

P.32に、参考資料1.として、第2四半期以降の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度も掲載しましたので、ご参考ください。

要約地域別売上収益(予想)

HITACHI

Reliable solutions

21年度連結売上収益は、中国、インド、アフリカで対前予想減となるが、それ以外の地域で増となり、合計では前回同様の前年比667億円の増収を見込む。

(単位：億円)

	21年度 予想		20年度 実績		前年比	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	2,115	24%	2,033	25%	81	4%
アジア	689	8%	527	6%	162	31%
インド	468	5%	500	6%	△33	△7%
オセアニア	1,450	16%	1,399	17%	50	4%
欧州	990	11%	878	11%	112	13%
北米	1,494	17%	1,072	13%	422	39%
中南米	142	2%	109	1%	34	31%
ロシアCIS	347	4%	227	3%	120	53%
中東	205	2%	161	2%	45	28%
アフリカ	303	3%	336	4%	△33	△10%
中国	596	7%	891	11%	△295	△33%
合計	8,800	100%	8,133	100%	667	8%
海外売上収益比率	76%		75%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 28

本年度売上収益は、前年比667億円、8%の増収の8,800億円の見通しを据え置きます。

アフリカと中国に加え、新型コロナ第二波の感染拡大が深刻なインドで、前年比減収を見込みますが、それ以外の全地域では増収を見込みます。

なお、為替円安による影響額については157億円と分析しております。

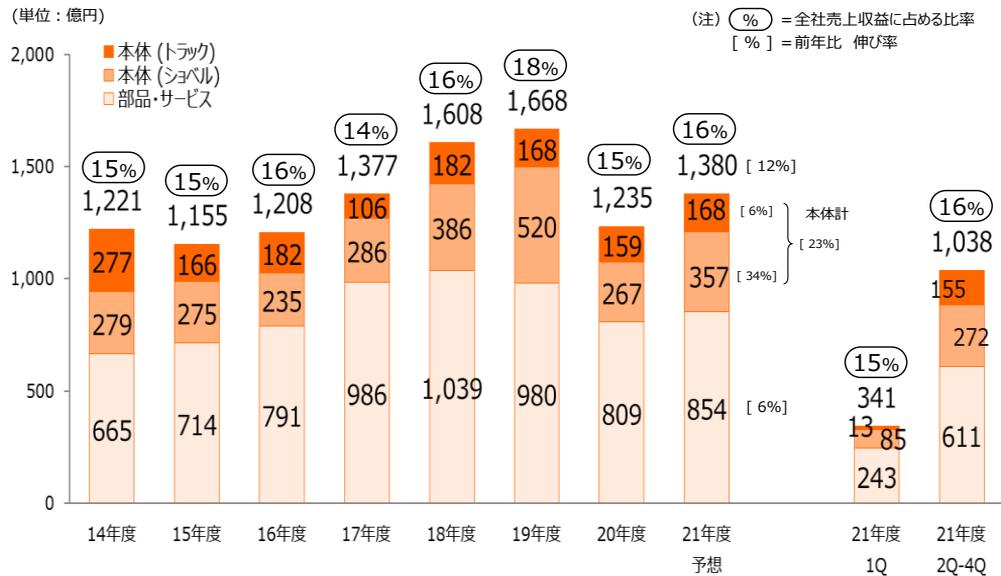
また、海外売上高比率は、前年比1ポイント増の76%を見込みます。

マイニング売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable solutions

前回予想と同じ、前年比12%増収の1,380億円を見込む。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 29

本年度のマイニング売上収益予想は、前回4月公表値を据え置き、前年比12%増収の1,380億円を見込みます。

鉄鉱石、銅等のハードロック、ならびに原料炭向け需要は回復基調にあるものの、一般炭向けは回復が弱いと想定し、引き続き、厳しめに想定しております。

それでも、マイニング機械本体はトラック、ショベル合計で、前年比23%の増収を見込む他、マイニング向け部品サービスも同6%の増収を見込みます。

売上構成比も、前年比1ポイント増加の16%を見込みます。

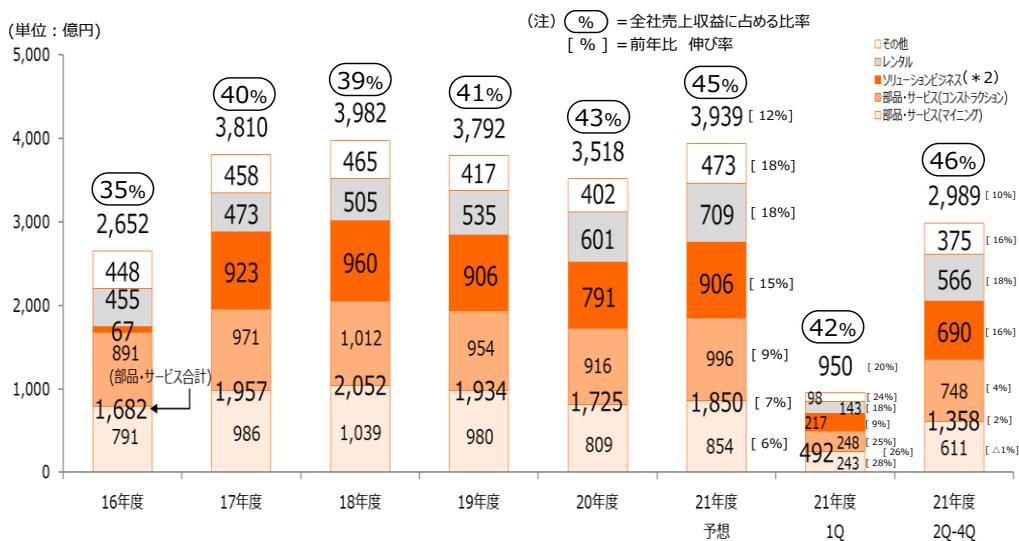
なお、P. 33 に参考資料2. として地域別の『マイニング売上収益内訳』を掲載していますので、ご参考ください。

バリューチェーン*1 売上収益推移(予想)

HITACHI

Reliable solutions

部品サービスは前回予想と同じ、前年比7%増収の1,850億円を見込む。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 30

当年度のバリューチェーン売上収益予想につきましては3,939億円、前年比12%増収と前回予想を上方修正します。

レンタルでは前年比18%増収の709億、ソリューションビジネスにおいても同15%増収の906億円を夫々、見込みます。

なお、部品サービスは、コンストラクション向け、マイニング向け共に増収を織り込んだ前年比7%増収の1,850億円を据置きます。

売上構成比は、前年比2ポイント増加の45%を見込みます。

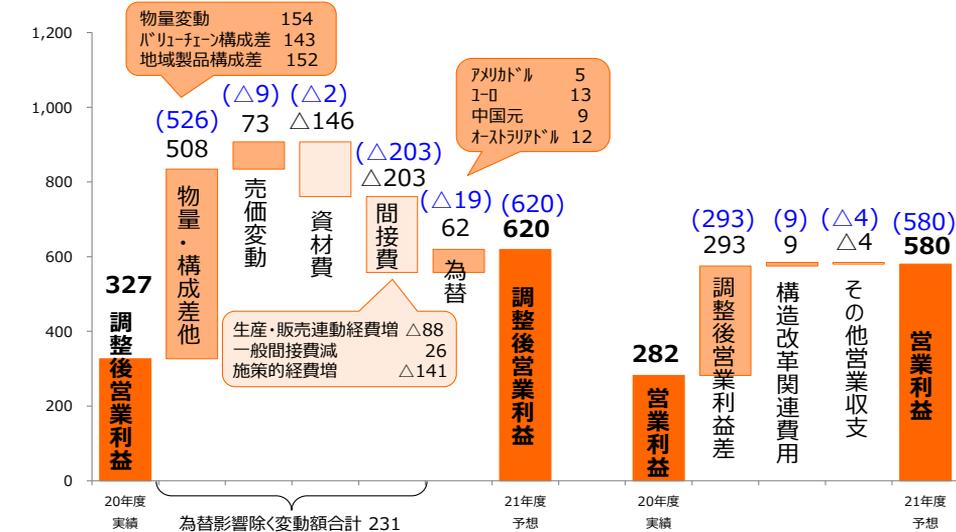
連結損益変動要因(予想)

HITACHI

Reliable solutions

21年度の調整後営業利益は、資材費アップ、間接費増はあるも、物量・構成差増や為替影響により前年比293億円の増益を見込む。

(単位：億円) 注.()内は21年4月公表値



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 31

21年度調整後営業利益が前年比で293億増益の620億円となる要因をご説明します。

この図に示しました通りに、物量の増加、構成差による影響508億が大きな増益要因となります。

売価変動は資材コスト上昇への対応を織り込み、73億の増益、一方で資材費は、日立建機単体や現地製造会社の鋼材値上げ影響を鑑み、146億の減益を見込みます。

また、物量増に伴う生産・販売連動経費や施策的経費の増加による間接費増加減益203億、加えて為替円安影響による増益62億を織り込むことで、調整後営業利益は前年比293億円の増益を見込みます。

営業利益も、調整後営業利益の増益にて、前年比で298億の増益となる580億円を予想します。

32ページ以降に参考資料を3枚付けておりますのでご参照ください。

参考資料 1 : 為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable solutions

21年度予想為替レートは、通貨毎に予想変動レンジ内で合理的に設定。

為替レート及び為替感応度

(単位：億円)

通貨	為替レート				感応度(2Q-4Q累)		
	21年度			20年度 実績	基準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q 実績	2Q-4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	109.5	105.0	106.0	106.0	1円円安になった場合	17	13
ユーロ	132.0	125.0	126.9	124.6	1円円安になった場合	5	4
中国元	17.0	16.0	16.2	15.7	0.1円円安になった場合	3	1
オーストラリアドル	84.3	80.0	81.0	76.0	1円円安になった場合	16	2

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable solutions

(単位：億円)

		20年度実績			21年度見通し			差額		
		1Q	2-4Q累	年度	1Q	2-4Q累	年度	1Q	2-4Q累	年度
米州	ショベル	32	73	106	19	48	68	△ 13	△ 25	△ 38
	トラック	3	18	21	7	18	25	4	0	4
	計	35	91	127	26	66	92	△ 9	△ 25	△ 34
欧阿中東	ショベル	32	121	153	62	147	208	29	26	55
	トラック	20	103	122	37	102	139	18	△ 1	17
	計	52	224	276	99	248	347	47	25	72
アジア・大洋州	ショベル	119	377	496	162	484	646	43	107	150
	トラック	77	231	308	51	214	265	△ 26	△ 17	△ 43
	計	197	608	805	214	698	911	17	89	107
中国	ショベル	2	5	7	2	4	6	△ 0	△ 1	△ 1
	トラック	0	1	1	0	1	1	0	1	1
	計	2	6	8	2	5	7	△ 0	△ 0	△ 1
日本	ショベル	3	13	16	1	15	16	△ 1	2	0
	トラック	0	4	4	0	6	6	△ 0	2	2
	計	3	17	20	1	20	21	△ 2	3	2
合計	ショベル	189	590	779	246	698	944	58	108	165
	トラック	100	356	456	95	340	436	△ 5	△ 16	△ 20
	計	289	946	1,235	341	1,038	1,380	53	92	145

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 33

参考資料3：セグメント情報

HITACHI

Reliable solutions

下記ソリューションビジネスの調整後営業利益は、P P A (資産再評価)償却費が含まれております。
21年度第1四半期実績には3億円、21年度予想には11億円がそれぞれ含まれております。

(単位：億円)

21年度 1Q	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	2,065	225	△ 9	2,281
調整後営業利益	4.9% 101	7.5% 17	-	5.2% 118

(単位：億円)

21年度 予想	報告セグメント		調整額 *1	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	ソリューション ビジネス		
売上収益	7,894	906	0	8,800
調整後営業利益	6.9% 543	8.4% 77	-	7.0% 620

*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2021. All rights reserved. 34

日立建機グループでは、持続可能な開発目標 (SDGs) の17の目標のうち、10項目の重点目標を設定しています。
当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

本日説明した安全や環境などへの対応のほか、日立建機ではSDGsの10項目を重点目標として、グローバルで展開しています。

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

END**お問い合わせ** **日立建機株式会社**

ブランド・コミュニケーション本部